

世界の諸地域 ～アジア州における地図の活用法～

滋賀大学教育学部附属中学校 上田真也

1 はじめに

昨年度から本格実施となった新学習指導要領。第1学年が地理的分野で最初に出会う「地誌的学習」として、中項目「世界の諸地域」がある。『社会科 中学生の地理』（以下、教科書）では、世界の諸地域の1節が「アジア州」となっており、アジア州の学習は、まさに中学生にとって、地誌的学習の入り口となっている。また、今回の改訂で指導が求められる「主題を設定し、課題を追究する学習」のみならず、「様々な地理的資料を有効に活用する地理的技能の育成を図る学習」としてもこの中項目は注目されよう。

2 地図での出会い

教科書p.44の「④アジア州の自然」や『中学校社会科地図』（以下、地図帳）p.21「①アジア州の自然と生活」で、アジア州との地図での出会いを設定することができる。また、これら地図に付随して、写真資料や雨温図、おもな農作物、植生と土地利用などアジア州の地理的事象をつかむうえで有効な資料にも同時に出会うこととなる。

地図での出会いの場面では、次のような発問が想定されよう。

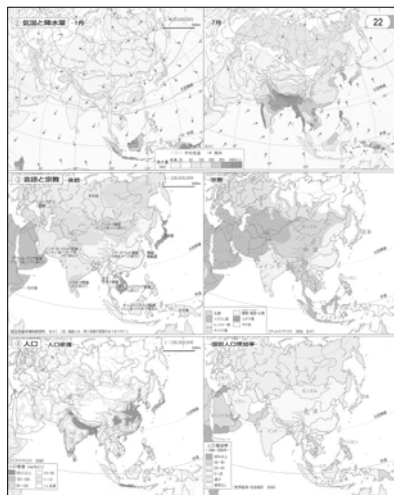
- どのような自然が見られますか？
- どのような土地利用が見られますか？
- どのような農作物が栽培されていますか？

もちろん、上記発問と合わせて、自然・土地利用・農作物などがアジア州のどのあたりで見られるかを地図上で確認させたい。

生徒は、自分の手元にある地図から読み取れる情報を、発問に合った地理的事象として捉えていくのである。地図の読み取りとしては単純な活動ではあるが、この場面で、地図から複数の情報が得られることを実感するはずである。

地図に慣れ親しむ活動は、扱う地域の地図と初

めて出会う導入時に、より効果を発揮すると思われる。なぜなら、これから学習する地域を俯瞰できるだけでなく、その地域に対する興味・関心を高める動機づけにもなるからである。



『中学校社会科地図』 p.22

3 地図（主題図等）の活用を促す発問

① アジア州の写真資料（国・地域）や雨温図の都市の位置を地図上で確認し、色ペンで印をつけよう。

【教科書p.44～56・地図帳p.21】

①の発問は、アジア州の国名や都市名を地図上で位置確認することにより、地図の活用慣れさせることができる。

② アジア州の衣・食・住を調べてみよう。

【地図帳p.15～16】

②の発問は、既習内容である「世界各地の人々の生活と環境」をふまえて、アジア州の衣・食・住について地域ごとに調査することができる。例えば、地図から読み取った内容を次の表などにまとめることで分類・整理することができる。

	衣	食	住
東アジア			
東南アジア			
南アジア			
中央アジア			
西アジア			

また、食に関しては、アジアの農業分布や年間降水量（教科書p.49⑥・⑦）、中国の米・小麦の生産や気温と降水量（地図帳p.25②・③）の地図が活用でき、農業と気温・降水量との関係性を読み取ることができる。

③ アジア州の1月と7月の気温と降水量を示す地図資料を比較して、気づいたことをノートに書きあげよう。

【地図帳p.22②】

③の発問は、地図資料を比較する活動から季節による降水量の違いに気づくことができる。また、風向きの違いからアジア州の気候の特色のひとつである季節風（モンスーン）の影響について理解させたい。

④ 言語と宗教の分布図からアジア州の文化の特色を読み取ろう。

【地図帳p.22③】

④の発問は、分布図を読み取る活動を通して、国や地域を越えた文化的つながりに気づくことができる。また、分布図の読み取りから、アジア州の文化の多様性に気づかせたい。分布図の読み取りは、地域の特色を捉える手立てとして、有効な資料活用であることを認識させたい。

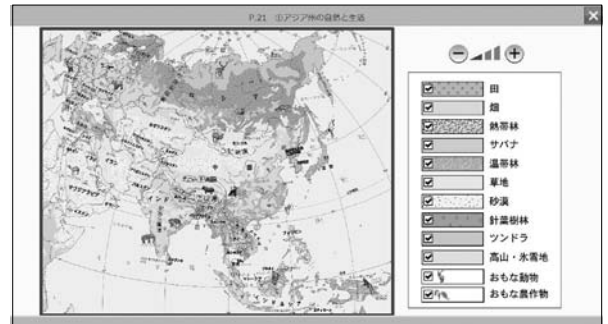
⑤ 複数の地図資料から、アジア各地の工業における地域的特色や日本との関係性を読み取ろう。

※具体的に扱う地域と国は以下の通り

- 東アジア：中国
- 東南アジア：東南アジア諸国連合
- 南アジア：インド
- 西アジア：サウジアラビア・イランなど

【教科書p.50～55・地図帳p.25～37】

⑤の発問は、複数の地図資料から特定の地域的特色を読み取ることができる。また、同じアジアにあるわが国との関係性を関連グラフ（輸出入品



【デジタル教科書（地図帳）・アジア州の資料図】

目割合など）の分析を通して、読み取らせたい。さらに、「なぜ、日本にはほかのアジア地域でつくられたものが多いのか？」といった発問などで、生徒の思考を深めさせたい。

4 デジタル教科書の活用

今回、新たな教材として紹介するのは、デジタル教科書の活用についてである。昨年度、実際の授業でデジタル教科書（地図帳）を使用することで、その有用性を実感することができた。

地図帳p.21の「①アジア州の自然と生活」は、上図のように示される。画面右の各項目をクリックすることで、その項目の分布が地図上に現れる。例えば、「熱帯林」の項目だけをクリックすると、その分布のみを示すことができる。そうすることで、アジア州の温帯の分布を強調することができる。また、クリック操作一つで注目させたい項目のみを示し、動きのある資料提示となり、生徒が思わず声をあげる場面となる。加えて、デジタル教科書の補助機能を活用することで、画面上にペンで印をつけたり、必要な箇所を着色したりすることができ、生徒への資料提示や作業指示が的確に行える。さらに、地図の拡大・縮小が短時間でスムーズに行えることもデジタル教科書活用の利点としてあげられる。このような動作をとる資料活用こそ、デジタル教科書を用いる最大の魅力であると考えられる。

デジタル教科書は、現在その活用が広がりつつあるICT機器とうまく組み合わせることで、日頃の授業そのものに潤いや幅をもたせることができるであろう。今後は、デジタル教科書の可能性に大いに期待を寄せたいうえで、日々の授業でその実践を積み上げていきたい。